

東北大学大学院情報科学研究科
言語変化・変異研究ユニット主催

講演会のご案内

講師

秋元 実治 先生

(青山学院大学名誉教授)

日時： 10月15日（土） 15時～17時
場所： 情報科学研究科棟 3階 小講義室
題目： 「動詞 ‘set’ の構文的・イディオムの発達」

概要：

動詞 ‘set’ (OE *settan*) は古英語においてもっとも頻繁に使われた動詞の一つである。その歴史は、端的に言って、中英語期以降、‘put’ と拮抗し、初期近代英語期後には ‘put’ に追い抜かれた。その過程において、‘set’ は頻度を減らし、その用法・機能を狭めていった。その結果、現代英語では、‘set’ は頻度において高いものの、限られたパターン内で機能することが多くなった。例えば、‘set + NP + preposition + NP’ (*set NP at rest*), ‘set + NP + adverb/adjective/to-inf/-ing’ (*set NP ablaze/free, set her to work, set the enemy flying*)、さらには句動詞 (*set out*) などである。

本発表では、まず、OED, Helsinki Corpus, Archer Corpus を基に、動詞 ‘set’ の古英語から現代英語にかけての変遷を考察する。その後、構文化 (Fried (2013), Hilpert (2013), Traugott and Trousdale (2013)) 及びイディオム化 (Akimoto (1999), Brinton and Traugott (2005)) の観点からその発達過程を議論する。最終的には、動詞 ‘set’ の発達過程は構文的であり、またイディオムのでもあり、いわゆる ‘constructional idiom’ (cf. Culicover and Jakendoff (2005)) の発達例であることを検証する。

多数の方のご来聴を歓迎いたします（申し込み・参加費不要）

本講演会は、東北大学運営費交付金、東北大学大学院情報科学研究科講演会・シンポジウム開催支援経費、科学研究費・基盤研究 (C) 課題番号 16K02753 (形態部門と統語部門にまたがる文法化と構文化についての統語論的研究) による補助を受けています。

問い合わせ先： 小川芳樹 (ogawa@ling.human.is.tohoku.ac.jp)

言語変化・変異研究ユニット URL:

<http://ling.human.is.tohoku.ac.jp/change/home.html>